

第2回千駄木小学校等改築基本構想検討委員会

会議録

日時	令和4年5月18日(水) 18:30~20:00	場所	文京区立千駄木小学校 体育館
委員 事務局	<p><委員> (出席)</p> <p>委員長 八木 茂</p> <p>副委員長 木村 健</p> <p>委員 蕨 英和</p> <p>委員 大井 明彦</p> <p>委員 長沼 阿希代</p> <p>委員 武井 彩子</p> <p>委員 藤井 隆弘</p> <p>委員 沖本 享正</p> <p>委員 中村 啓</p> <p>委員 島津 威仁</p> <p>委員 舟橋 菊男</p> <p>委員 高橋 毅喜</p> <p>委員 松本 正</p> <p>委員 菅 完治</p> <p>委員 藤森 源弥</p> <p>委員 富永 修紀</p> <p>委員 内藤 マリ子</p> <p>委員 相澤 夏紀</p> <p>委員 山口 麻衣</p> <p>委員 杉山 直之</p> <p>委員 多比良 由恵</p> <p>委員 宮原 直務</p> <p>委員 赤津 一也</p> <p>委員 石川 浩司</p> <p>委員 新名 幸男</p> <p>委員 大畑 幸代</p> <p>学識経験者 長澤 悟</p> <p><事務局></p> <p>熊野 巧 (教育推進部学務課)</p> <p>瀬島 ひかり (教育推進部学務課)</p> <p><コンサルタント></p> <p>株式会社マヌ都市建築研究所：板谷 龍二郎、道家 祥平、小松 妙子、今井 文子</p>		
次第	<p>1 開会</p> <p>2 委員委嘱</p>		

【資料第1号】文京区立千駄木小学校等改築基本構想検討委員会委員名簿

3 改築の是非について

4 その他

5 閉会

議事録

1 委員委嘱

○事務局：本日はご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は事務局を務めます、教育委員会学務課施設担当の熊野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の委員の出欠状況を申し上げます。現在、アドバイザーの長澤先生が到着しておりませんが、その他の委員の皆様は全員ご出席いただいております。

次に、本日の配布資料の確認を致します。本日の資料は、資料第1号のみです。資料の過不足等はありませんでしょうか。

また、今回の検討委員会より委員となった方には、席上に委嘱状を配付させて頂いております。こちらも併せてご確認ください。よろしくお願いいたします。

2 改築基本構想検討委員会について

○事務局：資料第1号をご覧ください。こちらは文京区立千駄木小学校等改築基本構想検討委員会の委員名簿です。

今回は新年度1回目の検討委員会で、また一部委員の改選がありましたので、改めて自己紹介を八木委員長より順にお願いいたします。

○八木委員長：皆様こんばんは。本日はお忙しいところ委員会にご出席いただき、ありがとうございます。当委員会の委員長を務めます八木と申します。教育推進部長でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○木村副委員長：皆さんこんばんは。副委員長の学務課長の木村です。どうぞよろしくお願いいたします。

○山口委員：本校千駄木小学校校長の山口麻衣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○杉山委員：隣の文林中学校校長の杉山直之と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○多比良委員：千駄木幼稚園園長の多比良由恵と申します。よろしくお願いいたします。

○蕨委員：千駄木小学校PTAの蕨と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

- 大井委員：文林中学校 PTA の大井と申します。よろしくお願いいたします。
- 長沼委員：千駄木幼稚園 PTA の長沼と申します。よろしくお願いいたします。
- 武井委員：前任の中田順子会長より引継ぎました、千駄木育成室父母会の武井彩子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 藤井委員：文林中学校育成室父母会の藤井です。よろしくお願いいたします。
- 沖元委員：文林第二育成室の父母会の沖元と申します。よろしくお願いいたします。
- 中村委員：千駄木小学校学校運営連絡協議会の中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 島津委員：こんばんは。前任の大脇さんから引継ぎました、地域学校協働本部の島津と申します。今回が初めての参加となります。よろしくお願いいたします。
- 舟橋委員：千駄木小学校同窓会の舟橋です。よろしくお願いいたします。
- 高橋委員：千駄木東林町会の高橋です。よろしくお願いいたします。
- 松本委員：千駄木西林町会の松本です。よろしくお願いいたします。
- 菅委員：千駄木三丁目北町会の菅でございます。よろしくお願いいたします。
- 藤森委員：上動五三会の藤森と申します。よろしくお願いいたします。
- 富永委員：動坂中町会の富永と申します。よろしくお願いいたします。
- 内藤委員：動坂町会の内藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 相澤委員：汐見青少年健全育成会の相澤です。よろしくお願いいたします。
- 赤津委員：教育指導課長の赤津でございます。よろしくお願いいたします。
- 石川委員：児童青少年課長の石川と申します。よろしくお願いいたします。
- 宮原委員：教育推進部副参事、学校施設を担当いたします宮原と申します。よろしくお願いいたします。

○大畑委員：整備技術課長の大畑と申します。よろしくお願いいたします。

○新名委員：企画課長の新名と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○長澤アドバイザー：学識経験者ということで参加させていただいております長澤悟です。学生の頃、向ヶ丘二丁目にあった寮で生活していて、この辺には馴染みがありました。しかし、今回の委員会の前に周辺を少しウロウロしていましたが、現在では道路などが綺麗になっており、過去との変化を感じていました。そのせいで遅くなってしまい、失礼致しました。学校建築については、新しい時代の学びを軸とする豊かな生活の場、地域と共に作り上げる競争の場、その根っことして安全と環境ということ踏まえ、新しい時代の学校づくり、学校施設をどう考えるかということがテーマとなって考えていくことになると思います。そのような時期にこの千駄木小学校では、皆様が集まって、学校に対する思いや学校について考えることは、恵まれた機会であると思っています。前回と同様に、皆様の熱い議論に同席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局：ありがとうございました。また、事務局の補助といたしまして、マヌ都市建築研究所よりご参加いただいております。

○マヌ都市建築研究所板谷：マヌ都市建築研究所板谷でございます。よろしくお願いいたします。

○マヌ都市建築研究所道家：道家と申します。よろしくお願いいたします。

○マヌ都市建築研究所今井：今井と申します。よろしくお願いいたします。

○マヌ都市建築研究所小松：小松と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局：事務局は、私、熊野と、同じく学務課施設担当の瀬島です。どうぞよろしくお願いいたします。本検討委員会につきましては、学校、PTA、近隣町会、自治会等の関係者の皆様方から、地域の課題や特性等、広くご意見をお伺いしながら進めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

3 改築の是非について

○事務局：改築の是非についての検討に移ります。これより司会進行は、八木委員長よりお願いいたします。

○八木委員長：それでは進めさせていただきます。まず次第をご覧ください。只今、次第の1番と2番が終わりましたので、3番「改築の是非について」に移ります。改築の是非についての検討を始める前に、前回昨年の12月10日に開催した検討委員会の内容について簡単に振り返ります

前回の検討委員会では、当委員会の進め方について、明化小学校の改築の例を挙げながら確認をさせていただきます。その後、千駄木小学校の現状について、資料を確認しながら事務局からお話しさせていただきます。

これらに対する委員の発言として、文林中学校育成室父母会・高岡委員より、特別支援教室の検討についてご質問を頂きました。また、上動五三会の藤森委員より、建て替えの前提についてのご質問を頂きました。

本日は、次第の3番「改築の是非について」、事前に配布いたしましたアンケートを適宜ご使用いただき、委員の皆様よりご意見いただきたいと思っております。机の上にもアンケート用紙があるかと思いますが、本日はまず、アンケート用紙の1番「改築するかどうか」について、「ア、改築」または「イ、改築以外の手法」なのかご意見を伺います。ここで記されている「改築」の言葉の意味ですが、明化小学校の事例でもお示ししました通り、建物を全て取り除いて新たに作ることを「改築」と定義しております。

では、まず小学校部分の改築をするかどうかについて伺います。仮に「ア」という結論であれば、この後で2番の改築施設の範囲について再度ご意見を伺います。改築についての皆様のご意見について、千駄木小学校PTAの蕨委員より順番にお伺い致します。

○蕨委員：1番と2番をまとめて発言する形でよろしいでしょうか。

○八木委員長：まずは1番のみでお願い致します。1番で改築する結論に至りましたら、2番について議論を進めるという流れとなります。

○蕨委員：私は「ア、改築」でお願いします。

○八木委員長：理由をお聞かせください。

○蕨委員：私は千駄木小学校の卒業生で、その間校舎が変わっていないため、改築をお願いしたく考えています。

○大井委員：文林中学校の大井です。申し訳ありませんが、こちらのアンケートを今回頂いた主旨が分かりません。ここに記載されている改築以外の手法の選択肢について、何も開示を頂いておりません。改築する必要性は前回の会議で教えて頂きましたが、改築しない場合の手法については伺った記憶がないため、この場での意見発言は出来ないと考えています。私が忘れていないかと思いますが、申し訳ございません。お答えいたしかねます。

○長沼委員：千駄木幼稚園の長沼です。私は「ア、改築」でお願いしたいと思っています。私の息子が千駄木小学校に通学しており、私も学校内に入ることが度々あります。校舎に行くたびに、廊下の反響音が気になっています。以前、授業中に他の学年の生徒さんが廊下を通られた際に、授業の音が聴こえないのではないかと思うほど響いていることがありました。勉強をする環境について考えると、改築

するべきだと思いました。

○武井委員：千駄木育成室の武井と申します。育成室の立場から、父母の立場からお話をさせていただきます。育成室の先生方のおかげで非常にソフト面が素晴らしい育成室だと考えています。しかし、48名の児童が過ごす育成室としては、古く、狭く、そして日が当たらない環境です。先生方には感謝しておりますが、この環境を何とか変えてほしいと強く思っております。そのため、私も「改築」に賛成いたします。また、育成室は子供達が長く過ごす場所でもあるため、例えば木造のような暖かみを感じることができる空間についても一考していただきたいです。よろしくお願いいたします。

○藤井委員：文林中学校育成室の藤井です。今回から参加しているため、前回の議論についてはまだ正確に把握しておりませんが、こちらの改築の検討については改築して当然だと考えています。改築しないことによるメリットは特にないのではないかと思います。改築する方向性で進めることで、特段の支障はないと思っております。

○沖元委員：文林第二育成室父母会の沖元です。私はこの1つ目の質問に対しては、「改築する方法」と「改築以外の手法」の両方あると考えています。先程、改築しない場合の方法は何かというお話がありましたが、校舎内のリノベーションという方法も考えの1つだと思っています。前回配布された文京区教育指針、体系の部分の中で、保育園幼小中の連携を図っていくこと、老朽化には対策を講じること、複合化をしていくことのように14項目として書いてありました。これはゼブラ色（ハッチ）で塗られていて、重要なことだと思っています。有効活用ということで考えた際に、給食室で例えるならば、同じ給食を作っているにも関わらず、小中幼稚園のそれぞれ施設があります。敷地が限られている中でその敷地を最大活用するのであれば、給食室を1つに出来るのではないかと考えています。また、理科室についても小学校と中学校とでは授業内容は異なりますが、実験する目的は同じのため、1つに出来るのではないかと考えています。他の多目的な場所を想定でき、有効活用に繋がるのではという意味で、リノベーションの考え方は良いのではないかと考えています。まとめて申し上げると、改築という意味においては、先程の老朽化対策を講じなさいという文京区教育指針に基づくと、一番古い千駄木小学校の建て替えが必要になると考えています。有効活用をしなさいと区が促していることに基づくならば、リノベーションという観点も含めて敷地を有効活用するという考えに至りました。「改築する」及びリノベーションの両方の意見を述べさせていただきました。少し長くなりましたが、以上です。

○中村委員：1番の回答について、改築をすることを強く希望いたします。理由としては、小学校の先生方からお話を聞く限り、教育現場では建物の老朽化による弊害が発生しているとのことでした。そのため、できるだけ早い時期に改築に着手されることを望んでおります。以上です。

○島津委員：地域学校協働本部の島津です。前任の大脇さんからいただいた前回の12月10日の議事録を何度か読み返させていただきました。こちらのアンケートに関しては、「ア、改築」を現時点では選択します。現時点でと申し上げた理由については、ここに住む子供たちの学びの教育や地域との複

合的な場所としての一面、それだけではなく、災害時には避難所としての役割も学校施設として担っていると思っているからです。そのような観点から、現時点では施設の有効活用というのはかなり厳しいのではないかと思います。ほとんどの場合は学びの部分で使用すると思いますが、災害時のそのような部分も含めた観点から見ると、「改築」ということで考えております。以上です。

○舟橋委員：同窓会の舟橋と申します。私は「改築以外の方法」の中で一部を残すことが、可能かどうかも含めて考えているのですが、少し難しいように捉えています。防災の問題も含めると、最終的には改築はやむを得ない状況になるのではないかと考えています。しかし、86年前に建てられた学校というのは、現在の建物よりも基礎的に丈夫な建て方をしている、そのような古い建物を解体する場面を見ると大変苦勞しています。そのぐらい建物の耐久性という観点においては優れた部分があります。それと同時に、卒業生の私から見ると、千駄木小学校の理科室や音楽室のような個性的な佇まいを持った学校が段々なくなっています。汐見小学校もそうでしたが、全く新しくしてしまうと、どこにでもあるような校舎になってしまって、古さと懐かしさの良い部分を持った個性的な学校が減っています。文京区の小学校を色々見ていくと、それはちょっと悲しいなど、感謝の部分もありますが、卒業生から見るとそういう所も幾分残しながらと言いますか、最終的なデザインの所で、そういう部分も考慮しながら、建物づくりというか、歴史を感じるような建物というのも大切ではないかなと考えています。以上です。

○高橋委員：改築には賛成しますが、私の希望としては100年以上歴史のある千駄木小学校を、明治の歴史があるのですけれども、この面影のある玄関の建物も老朽化が大分進んでいますけど、玄関だけの建物だけを残して、千駄木小学校という昔から歴史のある場所、建物を残してもらいたいと思います。私も卒業して70年以上経ちますが、やはり前を通りますと、「ああ、ここは懐かしい」と70年前に卒業した学校だなんて思って、通るたびに学生時代の思い出、学校生活の中で一番思い出が残っているのは学校です。ですから、行政の方も色々検討いたしまして、是非千駄木小学校の面影を少しでも残したいと思います。以上です。

○菅委員：千駄木三丁目北町会の菅です。今は諸先輩方の思い出がすごく強いということで誇りを持ちまして、本当にこの学校で幸せだという風に思います。実は私の父親もこの学校卒業、子供もこの学校卒業、孫は現役ということでございますが、どうやら私だけが戦後のどさくさで、地元に戻りましたが、自宅は巣鴨の方に行ってしまいます。小学校は豊島区の学校に通ってました。そこは多分こんなに古くないですが、それなりに歴史のある学校でした。今の皆さんの気持ちを聞きますと、確かに残すものは残しておきたい気持ちは私もございます。ただ実際問題、老朽化等の問題もありますので、安全性・快適性ということを考えるとやはりこれは改築せざるを得ないという風に思っています。ただ私はここを卒業していないのでわかりませんが、もしかしたら、この学校の建物に大変文化的な遺構が残っているならば、国宝級のものがあれば、残した方が良いではないかと思います。それだけを残して改築するという方向で良いではないかと思います。以上です。

○藤森委員：上動五三会の藤森と申します。前回この委員会の資料とか、お話を伺って、更にまた、こ

の先この学校を何十年も建て替えないで済ませる訳がないです。これははっきりと思ひまして、そのタイミングは今だと、こういう検討委員会が出来て、そうしますとこの先何十年に向って、新しい環境の小学校を作るということについては賛成でございます。この一番の問題については、アの「改築」方法に賛成といたします。

○富永委員：動坂中町会の富永と申します。1の改築するかどうかに関しまして、去年の会議の後に町会の集まりがなかなかこのコロナ禍でできなかったですけれども、1回開催できまして、その時に、ご報告を皆さんにしたところ、先程の諸先輩方がおっしゃったように、千駄木小学校を卒業された方、地元の方が非常に多いです。思い入れもすごく強いですし、どういう風に改築するのか、どういう風にやっていくのか、ということについて、ものすごく質問を受けたのですが、まだそれはこれからですよと、これからどうなっていくかは、話を聞いていて、徐々に決めていくのではないのでしょうかと。そして、先程お話にありましたように、このような改築方法がありましたというご報告もいたしましたけれども、基本的には町会の役員の皆様は改築にして頂ければ、老朽化も激しいし、子供たちも生徒数も児童数も増えていくので、なるべく早い時期でやって欲しいという要望がありました。ただ内容について、最後の方に、一体化とか、この2番の質問に入ってしまうんですけど、みなさん色々な意見がありましたので、2のところでお話するとして、とりあえず私どもの町会の中ではこの改築を早急に、たださっきおっしゃったようにこういうのは残せないか、ああいうのは残せないかというお話がありました。それは手法としてどういうふうに残せるのか、ということこれから考えていく。建物全体なのか、それとも形を残すのか、あるいはその文様だけを残すのか、というのはこれからになっていくと思いますが、この千駄木小学校にとって、また地元にとっても一番大きなものになっていくのかなと思うので、その辺を考慮してくれればなというふうに考えております。以上です。

○内藤委員：動坂町会の内藤です。よろしくお願ひいたします。1番の改築の件ですけれども、やはり町会の方でも毎月定例会を行っております、皆さんにお聞きしたところ同窓会長の舟橋会長もおっしゃっていた通り、思い出ある建物、特に玄関の所、それも壊してしまうのかといったご意見もありました。でも雨漏り等もあるということもお聞きしておりますので、子供達の安全を考えれば、アの改築の方を採らざるを得ないのかなといったこともあります。皆さんおっしゃるようになんかの形で思い出ある、百年以上続いている学校の伝統を残せたらいいなと思っています。町会としては一応アの方に賛成ということで意見をまとめております。以上です。

○相澤委員：汐見育成会の相澤と申します。私は改築をする必要があると思っております。理由としましては、老朽化によって今、お話がありましたように、雨漏りなどのお話を聞きますと、やっぱり教職員の皆様や生徒さんたちに色々な部分で不便をかけているかもしれない。そういう意味では早く改築をされた方がいいのかなと思っております。老朽化つまり、86年以上の建物と聞いておりますので、早急にやられた方が、私は良いと思ひます。以上です。

○八木委員長：皆様、ご意見ありがとうございました。改築をするあるいは改築をしない、どちらかを選んでいただくこととなりますので、最初は決めかねるとおっしゃっていた大井委員、皆様のご意見

を聞きながら、どのようにお考えかをお伺いしてもよろしいですか。

○大井委員：建物の老朽化とか子供たちの安全性、そういった点に関しては改築という案に反対することはまったくないんですけども、ただ選択肢をこういうふうにアンケートという形で提示していただいたときにどちらかを選べと言われたときに、イを選ぶときのバックグラウンドがいただけていないので、もしかしたら改築以外の手法による何か改善方法が、今言われている安全性とか、子供達の快適性とかを税金が手元になりますので、そこをコストパフォーマンスが高い方法でかつ効果的な方法がもしあるのであれば、そういった方法を選択するという可能性もあるのかなというふうに考えております。

○八木委員長：現在の建物を活かしながら改善できる方法があるのではないかと。

○大井委員：そうですね。

○八木委員長：それに対して小学校の方から、今の改善でいいのか、その辺は違うのかということについてご意見があれば、お示しいただければと思います。以前と比べて教育方法も変わってきたところではあるかと思えます。

○山口委員：今、沢山お話いただいた玄関は、先程数人の方からお話がありましたが、雨漏りもひどいですし、もう築 84 年か 85 年になります。長沼委員からのお話にあったように廊下や校長室、教室も歩くだけでへこんでしまうとありました。階段ではへこみはありませんが、雨漏りがひどく、手すりの間を水が流れていくということがあります。そうすると、床も壁も濡れ、子供たちが危険であることは実際にあります。そういう意味では、老朽化というところ、安全性という意味では大井委員が先程述べたように、改築するべきだと思っています。おそらく大井委員がおっしゃりたいのは、改築以外にも実際は方法があるのかについて伺いたいのですよ。例えば、改修ということでは、この建物が改修で間に合うのかどうか、大井委員は伺いたいのかなと思って聞いていました。また、以前から舟橋委員とは話していましたが、アールの部分については残したいと、私たちだけではなく卒業生の沢山の方からもいただいております。この意見は学務課にずっと伝えてきているところです。玄関の昇降口を見ると、逆に昇降口から校庭の方へずっと真っすぐに伸びているところ、その所が思い出深いというか、そういう思いがあるということはいただいております。その所は、この後色々なアイデアが出てくる中で、どのように活かしていくかを考えていけたら良いと考えています。

○八木委員長：皆様の懐かしさとか、佇まいというお話を沢山頂戴しまして、こちらの部分をどのように引き継げるかというのは次の課題になります。改修をしたとしたら、それをどうするかということで可能な部分と難しい部分はあると思いますが、ご意見をいただきながらそれがどこまで調整出来るのかということになっていくのではと思います。それを踏まえると、資料では昨年で 85 年ということでしたので、今年で 86 年を迎えているのかなと思っていますが、この先さらに何十年か使用していくことで、この機会を逸するということもありましたが。総合的にお考えいただいて、こちらでの会議の結

論を出していきたいと考えています。大方の皆様で、一番の「ア」の意見で承りましたが、こちらの意見で進めていくということではいかがでしょうか。皆様ご同意いただいたということで、よろしいでしょうか。

それでは、改築の方向で検討を進めてまいります。様々な懐かしさなど、このような形のことについては次の議論の機会に移るとここで決まったことであるというようにさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございました。では、左様にさせていただきます。

それでは、次の議題ということでアンケートの2番の改築する範囲について「ア、小学校のみ」の改築か、「イ、小学校、幼稚園及び育成室」いわゆる小学校以下の児童に関わる改築か、「ウ」それに中学校を加えるかということで、ご意見を伺いたく思います。

では、先程と逆の順番でお伺いいたします。先程町会でも話が通っていないということもありましたため、本日はまだ結論が出るということではなく、本日の結論は改築をするということなので、この会は次回以降も続くということになりましたので、現時点でのご意見をいただいて、どれにするかということについてはまた次回決定をしていけたらと思っています。皆様のご意見を伺えたらと考えています。

○相澤委員：育成会の相澤です。私は「ウ」を考えています。しかし、まず千駄木小学校を最初に作り上げてから、中学校、幼稚園の一体ということを考えています。今、みなさんからお話があったように、老朽化、雨漏り、廊下などのことも含めると、一体で改築することについてはどんどん時間が経ってしまっていますが、一体的改築をすることでコストダウンも出来ますし、連携や行事も繋げることによって良い方向に行くのではないかと考えています。ただ、何度も申し上げますが、まずは小学校から手を付けていただきたいと考えています。以上です。

○内藤委員：動坂町会の内藤です。まだこの件については町会の皆様方から意見を伺っておりませんが、育成室が学校内にあるということは子供たちにとって良い環境だったかということ、学校の改築の際に町会の皆様がお話しておりました。学校の敷地内にある育成室なので、安心できる環境だと話していました。私個人としては、小学校、幼稚園、中学校は別々の方が良いと考えています。一体化を希望しているのであれば、私立にそのような学校が沢山ありますので、公立という観念では、別々にあった方が、1つ機能が低下した際にもう1つの方に移行できるとか、1つ何か事が起きた際には全滅してしまうというか、先程のお話にあったように仮に給食室を1つにして、そこで何か起きた際に全部が駄目になってしまい、助け合いが出来なくなってしまいます。地域的には、幼稚園、小中の触れ合いは伝統として引き継いでもらいたいです。私個人としては校舎を分ける方が良いと考えています。

○富永委員：動坂中町会の富永です。先程、町会で1に関しては改築するということで、役員の方にそれを早急にやっていただきたいという意見を集約してまいりました。2に関しましては、先日の会議の時にこの小学校、中学校、幼稚園が近くにある場合は、一体化になる場合も検討していく要素があるとお話しいただいたと思いますが、このことをお話ししたところ、少し怪訝そうな反応がありました。まず小学校を改築して欲しいこと、なぜ幼稚園と中学校も一緒になるのかというお話もありました。この地域性から考えると、そういうこともあると伝えました。ただ、千駄木小学校と文林中学校の間に

は道路があるなどの具体的な指摘もありました。やり方次第なので、これから先どのようになるのかは分からないので、次回の時にそのようなお話が出るのではないかとということでその時の町会内の議論は終わりました。そのようにしていたところ、今回このようなアンケートをいただきまして、最初からこのようになっていくのかなと思いました。まず、改築について意見はあるかと思いますが、挙手で決定すれば良いと思いますし、改築の方向かなと思います。2は先日の会議でもお話がありましたように、どのようになっていくのかなと思っています。その際に出た意見が、区としてはどのように考えているのかという意見が出ました。しかし、区の方たちからはこうしたいああしたいという意見はなく、まず委員が会議を通して要望を伝えて議論していくのではないかと、町会には伝えました。ただ、自分たちや地域の考え方はあるが、区がどうしたいかは次回の会議で出るのかと言われましたが、会議が終わり次第報告すると伝えました。2に関しては、まずは小学校が一番大切で、現在の校舎を早急に変えていかなければならないと町会では考えています。しかし、話し合いの中で、幼稚園や中学校と一体化した方がより良い関係に、あるいは良い建物に、良い地域になっていくのであれば、そのようなことも考えていくことも必要だと話しています。漠然とした意見がありましたので、それだけご報告いたします。

○藤森委員：上動五三会の藤森です。只今、富永委員がお話したように、前回の委員会では主に小学校の建て替えについての資料などをいただいたかと思えます。それについては、先程改築という結論が出たように検討させていただきましたが、幼稚園、小学校、中学校を全て含めた一体的な改築ということについてはまず資料がない、それから一体的改築になった際のメリットやデメリットについての資料もありません。建て替えについては1つの敷地の中の1つの建て替えについては新しい小学校を建てるイメージはしやすいかと思えます。この周りとの連携については、選択しろと言われても資料がないため、町会への報告もできない。改築をしたら、どのようになると言えるような状況ではない。その中で、選べというのは難しいと思っています。反対に前回のいただいた資料の教育指針で、近隣に学校施設がある場合には、方針としては一体も含めて検討すると、記載されています。ということは、検討するという事はやるべきだと思いますが、資料なしに委員が個人個人で考えるというのは難しいと思っています。また、今後そのような資料が出てくるのか検討いただきたいです。

○菅委員：千駄木北町会の菅です。今回、私は初めて参加いたしました。前回は、他のイベントと重なってしまい参加できなかったため、皆様と比べると知識のレベルに差があるのかなと思っています。こうしたところで、幼稚園、小学校、中学校が同じところにあって一体化できるというのは、構想的には魅力的です。他の区にはそのような学校はありませんからね。魅力的ではあるのですが、只今皆様がお話しされたように具体的にどうなっていくのかという絵が見えません。それが見えない以上、非常に悪いデメリットが出てくるのでないか、それについても分からないため、気分的には良いと思いますが、敢えてここではこのようにした方が良いという結論は保留させていただきます。

○松本委員：西林町会の松本です。幼稚園と中学校を含めた1つの学校のようにすることに対しては、あまり良いとは思えません。距離的な問題、つまり近いとは言いながら多少距離も離れていて、その3つを1つの学校にして責任者を決めて運営していくことには問題があるのではないかと考えていま

す。やはり幼稚園は幼稚園で、小学校は小学校、中学校は中学校というように、独自の立場でそれぞれ運営していくことが、先行き様々な面で問題が起こりにくいのではないかと個人的には考えています。他に言うことはいくらでもあります、1つのものを一括して検討するということは問題かなと思っています。

○高橋委員：文京区の千駄木地区では、幼稚園、小学校、中学校の3つの教育機関が隣接しています。他にこのような場所はないのではないかと考えています。そのため、近隣の方にもそのような状況は喜ばれているのではないかと考えています。また改築の件については、初めに千駄木小学校、その次に幼稚園、中学校の老朽化の改築を行政には頭に入れておいていただきたいです。以上です。

○舟橋委員：同窓会の舟橋です。具体的な意見はありませんが、文京区の教育指針という体系の中で、保育園、幼稚園、小学校、中学校の連携及び接続というのが記載されているかと思います。しかし、これはあくまでも目標であると思うのですが、今現実には、例えば幼稚園の児童のほとんどが千駄木小学校に入学しますが、千駄木小学校から文林中学校に進学する児童がとても少なく、ほとんどの児童が国立、私立や他の中学に進学してしまうとのことです。そういうことも含めて、文林中学校も千駄木小学校と同じように上手く連携して進学するというのが理想だとは思っています。しかし、父兄の方々は考えが全く違います。そのまま文林中学校に進学させようと考えている方は多くないと思います。そのようなことも含めて、幼稚園、小学校、中学校の一体化は、方針をしっかりと理解できるような教育指針を示していけば、この3つがこの地域に揃っていることは大変有利に思っています。予算の問題などがあるかと思いますが、せっかく指針を打ち出しているのだから可能であれば、それに沿って進めていくことが一番良いのではないかと考えています。どれかと言われれば意見については「ア」ではなく、理想としては「イ」、「ウ」が良いと思っています。

○島津委員：地域学校協働本部の島津です。ずるい言い方ではありますが、現時点での意見は保留です。理由としては、地域の方のご意見や建物に対する思い出があり、それを踏まえながら次世代の子供たちを育てていきたいという気持ちも汲んでいくと、結論が出しづらかったため保留とさせていただきます。先程の内藤委員のご意見にもありましたが、機能を1つに集約してしまうと1つが機能不全を起こした際に全機能が停止してしまう恐れがあります。リスク分散の点から考えると、施設としての機能は分散した方が良いのではないかと考えています。また、この地域では少子化に相反するほど児童数が増加しています。将来を見据えて施設をコンパクトにするよりは、建物の規模数は維持したままで、現時点では小学校のみの改築に限定した方が、今だけですけれども、良いのではないかと考えています。先程も申し上げましたが、現時点では保留とさせていただきます。

○中村委員：学校運営協議会の中村です。千駄木小学校、文林中学校、幼稚園が全て一体化したならば、おそらく文京区で1番広い教育施設になるのではないかと考えています。しかし、千駄木小学校と文林中学校の校庭の間には道路があり、千駄木幼稚園と文林中学校の間には1軒民家があります。その交渉、それについてかなり費用がかかることや道路を文林中学校の体育館の裏側に移設することが、もし可能であれば良いとは考えています。しかしながら、大変な時間が掛かることへの懸念がありま

す。千駄木小学校を単体で改築したとしても、それでも多くの時間が掛かることは簡単に想像できます。現状で雨漏りや老朽化している千駄木小学校の校舎を可能な限り早く改築し、綺麗な環境で児童には勉強して欲しいと考えています。そう考えるならば、「ア、小学校のみの改築」を希望いたします。ただし、既存校舎の付帯設備である千駄木育成室を含めた改築を希望いたします。

○沖本委員：文林第二育成室の沖本です。改築する施設の対象範囲についてかと思うので、そのみに着目すると「ア、小学校のみの改築」なのかと考えています。先程リノベーションについての話をしましたが、実現可能性と老朽化に対応するスピードを考慮するならば、小学校を第一優先に考えるべきだと思っています。ただ、一体化という教育指針がありましたが、地域に開かれた小学校を作るという意味で、中学校の生徒や幼稚園の園児が小学校の施設や敷地の利用、備品の貸し出しなど、そのような意味での一体化は実現できるのではないかと思います。改築の対象範囲は小学校のみで、今後の利用の仕方については一体化が実現できるのではないかと考えています。

○藤井委員：メリット・デメリットが見えないため、判断に迷うところがあります。構想のお話を伺っていると、一体改築していくメリットは多くあるようにも思います。しかし、一体改築を行うことによって、どこにどのような影響が及ぼすのか今一つ見えません。一見、文字面だけを追っていくと一体改築がよく見えますが、それによって工期の延長や改築中の教室の確保などの問題が生じるのではないかと考えています。どこにどのような影響が出てくるのか分からなければ判断は難しいです。先程、沖本委員が話されていたようにスペースの効率化を考えると、一体的改築では仮に小学校の児童数が増加して教室が足りなくなった際に、中学校の教室を小学校として利用できる、またその逆についてもそのフレキシブルさ、拡張性があると考えています。そのような対応の柔軟さが生まれるならば、一体的改築を行うことに大きな価値があるのではないかと思います。また、どこまでを一体的な改築と捉えるかによって、こちらにある選択肢以外にも小学校と中学校に限定する考え方もあるのではないのでしょうか。理由としては、定員の問題があります。千駄木幼稚園や育成室には定員があり、育成室については住所によって振り分けされています。一方、小学校や中学校については希望した学校に入学できるかと思しますので、その不公平感をなくす、つまり先程述べた拡張性を踏まえると、小学校、中学校の入学希望者の全員が入学できるというメリットを（幼稚園、育成室に入れなかった方々が）享受できるのではないかと考えています。

○武井委員：千駄木育成室父母会の武井です。改築の際は是非育成室も含めていただきたいと考えています。千駄木育成室の建物の現状を是非見学いただければ、ご理解いただけたと思っています。設問2の「イ」と「ウ」の可能性を考えたいです。ただし、幼稚園と中学校の現状と歴史的背景につきましては、現段階では不勉強のため判断はいたしかねます。また、「ウ」に関しては教育、街づくり、地域のレジリエンスの視点から全てまとめて作り直す利点があるならば、是非示していただきたいです。

○長沼委員：千駄木幼稚園 PTA の長沼です。幼稚園の建物は今年で築 46 年目になり、千駄木小学校と同様に外壁のひび割れや建物全体の黒ずみなど、所々顕著に老朽化しています。私が知る限りでは、4 年連続で幼稚園の改修について区に要望書を提出しております。幼稚園の父母会としては、「イ」もし

くは「ウ」を希望いたします。可能であれば、皆様と一緒に父母会の要望に応じていただけたらという思いがあります。また、幼稚園は以前より小学校と中学校との交流があります。現在コロナ渦で難しくなりましたが、文林中学校の生徒さんにボランティアとして行事などのお手伝いをいただいています。近いからこそできる交流は、この学校特有の特色なのではないかと思っています。だからと言って、それらを一体化することは違うことなのかもしれません。しかし、一保護者としても一体的改築は良いことだと思っています。子供は環境の変化に対してストレスを感じやすいです。それを踏まえると、一体的改築ができれば、大きな環境の変化を迎えずに成長していくことができるメリットになると考えています。「イ」または「ウ」がいいと思っています。

○大井委員：文林中学校 PTA の大井です。文京区で提言されている保幼小中連携については、今幼稚園の方が教えて下さいましたが、とても良い取り組みであると思っています。実際に文林育成室も幼稚園に行かせていただいたり、千駄木小と文林中が連携させていただいたり、とても相乗効果が出ているのではないかと考えています。しかし、他の委員の方も意見されていましたが、「イ」と「ウ」については前回の資料でも小さい項目であくまで可能性としての提示でした。そのような前提条件の中で、「イ」と「ウ」を選択肢に出されても選択のしようがないのではないかと考えています。そもそも設問2がなぜここにあるのか疑問に思っています。それも大事な問題であることには変わりありませんが、千駄木小学校の安全性や生徒の快適性について議論することが本来の目的ではなかったでしょうか。また根本的なこととして、今回この場で議論されるべきことは、千駄木小学校をより良くするにはどのようにしていくべきか、ということだったと思っています。もったいないかなと思っています。文林中学校については、大きな金額をかけて快適化工事を行って施設面を新しくしています。一体化することのメリットが分からないというのが正直なところです。そのため、文林中学校において一体的改築によるハード面の更新はあまり意味がないのではないかと考えています。また設問2の「イ」についてですが、今回の議論に文林中学校育成室の方が参加している中で、育成室の言葉の定義がどこまでを指すのか疑問に思っています。千駄木育成室であれば、施設の老朽化というお話もありましたので、千駄木小学校の隣にあることから一体的に何らかの対処をすることは良いことだと考えています。一体的な改善についてですが、もし2校1園にするならば、区としてどのようなイメージを持っているのか疑問に思っております。単純に建物、ハードを一体的に作り、ソフトの組織はこれまで通りということイメージされているのか、それとも一体的な組織を組み込もうという意図があるのか、そういったところの想像がまったくつきません。今回に関しては、千駄木小学校と千駄木育成室、先程伺った老朽化している幼稚園の一体的、もしくは個別に要望書の対応を区から行っていただければと思っています。

○蕨委員：私はこの回答の並びで見れば、当然「ウ」が魅力的に感じると思います。しかし、今指摘があったようにイメージがつかないということがあります。全部の施設が1つに一体化したならば、便利なるのではというお話もありました。千駄木小学校としては、児童数が増えつつあり、今や800名になるころではあります。しかし、文林中学校のみ見ると、私が卒業した時と比べると現在は生徒数がだいぶ少なくなっている中で、増えてきている千駄木小学校のために教室を分配することができれば良いことだと感じています。私の子供も千駄木育成室から卒業しましたから、育成室が綺麗になっ

たらとても良いと思います。イメージが全然つかない中では、「イ」や「ウ」が魅力的に思ってしまう。しかし、改築するにはそれなりの時間がかかってしまうということになれば、優先順位をとって、折衷案で、という話になると思います。しかし、今の段階（具体的なイメージがつかない状態）では皆さんコメントしづらいだろうなという印象を受けました。私からは以上です。

○八木委員長：委員の皆様、様々なご意見をありがとうございました。参考となる意見が多かったように思います。私どもとしては、教育指針の体系の中で、老朽化した学校施設は順次対応していくこととしています。現在、老朽化の度合いからすると、文京区としては該当しているのが千駄木小学校と小日向台町小学校の2校が老朽化が進んでいるという位置付けをしております。さらに、その教育指針の中では、校地が有効活用のために隣接する等の条件が整っている場合には、改築等をする際に一体的な整備について検討するとしています。それは一体的整備を必ず実施するというのではなく、検討するということです。従いましてこの場をお借りして、皆様にまずは、今日の推薦母体のご意見ではなく、今のこの場でのご意見という形で伺いました。大変参考になりました。今後については、一体的な整備をするメリット・デメリットが見えにくいというご意見がありましたので、区の考えは今申し上げた通り検討はするが、結論は決まっておられません。区の考え方ではなく、一般的なメリットとデメリットの資料について、次回会議までにお示しをしたいと考えております。本日、皆様にいただいたご意見は議事録に掲載しますが、議事録だけですと比較がしづらいと思いますので、何か類似点があれば、表になるような形でお作りをしてお示しをします。推薦母体の方に戻られた後、意見の内容、メリット・デメリットの内容を元に、では、どうしていくかということをもたお伺いできればと考えています。資料として、幼稚園、育成室、小学校、中学校の資料がないというのは、改築をしないという結論になると全く使用しない資料になってしまうため、本日はまだお渡しはさせていただいておりませんが、育成室の現状、幼稚園、中学校についても前回の小学校と同様のものを次回お示しさせていただきますので、そのような形で今後進めさせていただければと考えております。考え方について、ご意見があればと思いますが、いかがでしょうか。

○内藤委員：改築については、建築してからどれくらい経過するとその対象になるのでしょうか。もしあれば、具体的な年数も教えてください。

○木村副委員長：築60年以上の建物で、その建物の状態や状況に応じて対応しています。築84年の千駄木小学校と小日向台町小学校が対象となっております。これ以前につきましては明化小学校が築90年を超えておりましたので、改築しております。基本的には築60年を超えている中で状態を鑑みて対応していくというところです。

○大井委員：今、明化小学校のお話が出たので、1点質問させてください。今改築の途中ですよね。今の予定で明化小学校の完成予定はいつぐらいになるか教えていただければと思います。

○事務局：明化小学校の完成予定は、令和8年10月頃を予定しております。

○大井委員：前回、明化小学校の改築基本構想検討委員会の資料を見させていただいて、第1回の検討委員会がこちらの委員会に該当すると思いますが、第1回が開催されたのが平成26年10月と記載されております。そうすると、完成まで12年の時間が掛かっているということについて、ここにいる委員の皆様がこの時間の感覚を認識していただけると、今後の議論や検討がスムーズに進むのではないかと思います。例えば、今こうだから今すぐこうということではなくて、そういうことですね、きっとこの委員会として。その部分をはっきりさせたかったので質問いたしました。

○八木委員長：先程申し上げたように、次回までに様々な資料等ご用意させていただきますので、よろしくお願い致します。では、次に次第の4についてですが、全体を通して長澤先生から何かご意見があればお願い致します。

○長澤アドバイザー：本日は色々なご意見をお聞かせくださり、ありがとうございます。それぞれのご発言に対して回答が異なっても、他の委員のご発言について皆様がうなずきあう良い会議だったかと思えます。文京区としては、既に改築することに決まっているからそれについて意見を求めるということではなく、その前段階から進め方についてのやり取りがあることは、他の区にはない文京区ならではの、文京区流ということが言えて、それに各委員がそれぞれの母体の考え方も踏まえながらおっしゃっていたかと思えます。最初の改築するかどうかについては、これをお聞きしていると、2番の質問も含めて、大井委員からは例えば判断するには条件というか、内容がないと判断できないということは、その通りだと思います。私は計画の立場ですから、様々な条件による想定がいくつかありまして、それを捉えていて、他の発言されていた方もそれを踏まえながら、お互いに納得し合えるものだったかと思えます。

沖本委員のご意見は、まさに建築計画的な観点で、改築というものをさらに大きな課題の中で捉えようとしているご意見だったと思えます。舟橋委員のご意見は設計者的な観点を含めたものでした。その後続く、同窓会関係の皆様のご回答は、改築することは必要として、ただ改築するのではなくて、大事にすべきものがあるだろうというご指摘がありました。これも皆様、同感のところがあるのだと思えます。

前回申し上げたかもしれませんが、全員が参加して学校づくりを進める時に、私がいつも申し上げているのは、議論するのはまずは3つのラということです。

3つのラの1つは、粗のラですね。今の問題点は、これは改善しなきゃいけない。改善しなきゃいけないところをまずはテーブルに出して、状況を全員で共有する。床がへこむなどは、粗の一番分かりやすい例で、雨漏りも含めてですね。

それから2つ目のラは、宝のラです。改築することになっても、そこで大事にしたいもの、ただ改築して今まで大事にしていたものがなくなるのではなくて、大事にするものを全員で共有して、大事にする仕方、残し方を考えていく。玄関灯だけは残せないか、前回も申し上げていたらすみませんが、玄関灯の建設は昭和11年になりますかね。昭和11年、12年の建設というのは昭和12年に日中戦争が始まり、それ以降学校の建設がなくなります。戦前の一番良い質の学校建築というのが昭和11年、12年くらいに建っていて、まさにこの棟はその時に建てられたもので、歴史的に見ても見るべき価値があるというように思っています。それはともかく、宝を全員で出し合うという、これは今日も色々な宝が出

し合えたと思います。残し方として、そのものを残すというのと、改築するけどイメージとか雰囲気を残す、というご意見もあったと思います。建築的には、残し方には様々な工夫の余地があると思います。

3つの目のラは、未来のラということで、今までの学校施設を新しくするのではなくて、今の子供たちが生活する世界とは、ここにいる私たちが全員経験したことないような世界で生活する、あるいは社会を支えてくれる訳ですから、その子供たちのための学びの場が学校です。地域が学校を支え、学校が地域を支えるなどの課題、地球環境の問題とか木材を活用していくとか、災害避難場所になるとか、何と言っても子供の安全など、そのような課題があります。それらを今までの経験の延長だけで学校施設と考えるのではなくて、そこには新しい情報を仕入れて勉強しなくてはいけないところもあると思います。その上に立って、今までの固定観念の学校とは違うものをどのように全員で考えていくかということになると思います。その課題の1つが2番の課題になるかと思っています。今までであれば、小学校は小学校、中学校は中学校ということでしたが、特にこの地域では幼稚園、小学校、中学校が一緒であって、育成室というのがそこを舞台にして子供達の育ちを支えています。この現状の立地条件をどう活かすのか、このような幼小中が近接している条件がなければ、そもそもこのテーマや質問は無い訳です。この千駄木の持っている潜在的な資源をどう活かすかということ、一旦スタートのときに皆さんで意見を出して考えようというのが設問の意義になるかと思っています。

一体的改築と書いていますが、一体的というのは、本日スピード感というお話も皆様からありましたが、同時に整備するという上での一体的ということと、それから施設を一体的に作るという両面があると思います。それから、施設はそれぞれだけど、運営面で連携や交流をしていく観点が大事じゃないかというご意見もありました。こちらについては、潜在的な可能性を持っているものに対してどのように理解するかということで、ただ、今まで経験していない学校の姿なので、どこかの段階でそのような事例を全員で見に行くことも良いのではないかと。あるいは、そのような事例について情報を提供していただき、それを見ながら特質を判断し、その際に一般的な判断ではなくて、千駄木の特色を踏まえて判断をどのようにしていくのかということになると思います。特に設問2についてはご意見が分かれていましたが、「ア」とお答えになった基準も明確でその通りだと思いました。それから、「ウ」あるいは「イ」と「ウ」の回答もありました。こちらはこの条件ならではの状況に活かしたら良いのではというご意見だと思いました。特に2については、まだ結論を急がなくても良くて、先程委員長が言っていたが、皆様の現時点での意向が得られたということで、それに対して様々な資料を用意して次回以降どう議論していくのかというのが、次回以降の課題でもあると思います。楽しい時間を一緒に共有できるのではないかと思います。最後は情緒的な発言になりましたが、良い学校にできるのではないかと実感を持たせていただきました。どうもありがとうございました。

○八木委員長：長澤先生、貴重なお話ありがとうございました。今後の議論、資料作りにも活かしていきたいと考えております。最後に事務局から連絡を申し上げます。

○事務局：次回の検討委員会について、2か月後の7月を予定しています。今後、2か月おきに開催をしていく予定です。事務局からは以上です。

○八木委員長：それではこちらで閉会いたします。ご協力いただき、大変ありがとうございました。

以上。